

# 文章を正確に理解し，自分の考えを適切に表現する 国語科の授業づくり

～説明的な文章の複式指導を通して～

伊佐市立牛尾小学校 教諭 上山崎 恭平

## 目 次

1	研究主題	2
2	研究主題設定の理由	2
3	研究の目標	2
4	研究の仮説	3
5	研究の実際	3
	(1) 研究の計画	
	(2) 児童の実態について	
	(3) 説明的な文章の複式指導における，文章を正確に理解し，自分の考えを適切に表現させるための手立てについて	
	(4) 検証授業	
6	検証授業後の児童の実態	10
7	成果と課題	10

## 参考文献

- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』2018年
- 齋藤 達也『1日10分！音読で国語の成績は必ず上がる！』2013年
- 伊佐市教育開発研究委員会『伊佐市の複式学習指導』
- 株式会社Loilo『ロイロノート・スクール授業実践事例&活用法ー小学校・中学校用ー2020 Vol. 1』2020年
- 日本煙火協会『職人の技が光る 花火の大図鑑 種類, 作り方から歴史まで』2009年

## 1 研究主題

文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する国語科の授業づくり  
～説明的な文章の複式指導を通して～

## 2 研究主題設定の理由

現代社会は、グローバル化の進展や技術革新等により目まぐるしく変化しており、今後ますます予測困難な社会になっていくと言われている。そのため、文部科学省\*1(2018)は、そのような社会を担う子供たちに、社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながらよりよい社会と幸福な人生の創り手となる力、いわゆる育成を目指す資質・能力を身に付けさせる必要があるとし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた授業改善を求めた。

国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目指し、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全ての領域において学習過程を一層明確にし、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けるなどしている。また、「正確に理解し適切に表現する」とは、学習指導要領によると、「国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力」とされている。どちらも「連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには、国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。」と示されている。

本校では、昨年度まで、「自分の考えをもち、深め合う国語科の授業づくり」という研究主題を基に研究を進め、文学的な文章を指導する際における学習計画表の工夫や、ICTの利活用等が考えを形成すること、考えを伝え、深め合うことに有効であるという研究成果を得た。一方で、考えたり、表現したりするための基礎的な内容の理解ができていない児童は、考えの形成に至らないという課題が出た。また、本校の課題として、国語科が苦手な児童は、他教科の理解が不十分な傾向にあることから、今年度も国語科を中心に授業改善を行う必要があるということが指摘された。

他教科の教科書に書かれている文章を分析すると、説明的な文章で書かれていることが多く、このことから説明的な文章を指導する際において、重点的に授業改善する必要があると考えた。

そこで、本研究では、まず、国語科の学習において、どのような課題があるのか、児童に実態調査をし、実態とその要因を分析・把握する。次に、国語科の複式指導において文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する、その効果的な学習指導について明らかにする。そして、検証授業を通して、成果と課題を整理していく。

このような研究を通して、児童が文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現することができれば、他者と考えを伝え合う中で、より深い理解や思考等を得ることにつながるのではないかと考え、本研究の主題を設定した。

## 3 研究の目標

- (1) 児童に対する実態調査を分析し、国語科の学習における児童の実態を整理する。
- (2) 国語科における複式指導において、説明的な文章に書かれている内容を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する効果的な学習指導を明らかにする。
- (3) 検証授業などの分析や考察を通して、研究の成果と課題を明らかにする。

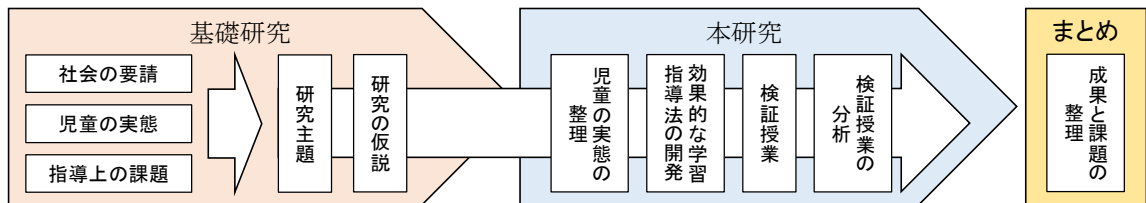
\*1) 文部科学省(2018) 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』 東洋館出版社

#### 4 研究の仮説

国語科における複式指導において、説明的な文章に書かれている内容を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する活動を充実させたならば、文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する児童を育成することができるのではないだろうか。

#### 5 研究の実際

##### (1) 研究の計画



##### (2) 児童の実態について

調査 1 より、「教科書に書かれている文章の内容が分かりますか。」と児童に質問したところ、多くの児童が「分かる」と回答していることが分かった。一方で、否定的に回答している児童が 3 人いることが分かった。否定的に回答している児童に理由を聞いたところ、「文の内容が難しい。」や「言葉の意味が分からない。」といった理由を挙げていることが分かる。よって、「何を目的に読んでいるのか。」や「どのような言葉に着目するのか。」などを児童に意識付けさせながら、丁寧に読み進めさせる必要があると考えた。

調査 2 より、「読んだことや聞いたことを整理できますか。」と児童に質問したところ、「できない」と回答した児童が多くいることが分かった。また、両者に「整理の仕方」や「できないと回答した理由」について質問したところ、時間的な事柄に着目したり、事実や感想を区別したり、要旨を短くまとめたりすることについての言及がなく、整理の仕方が分からないといった回答も目立った。よって、書かれている内容から、どのような情報をどのように整理するかについて、指導を充実させる必要があると考えた。

調査 3 より、「自分の考えを伝えるときに工夫していることは何ですか。」と児童に質問したところ、「話し方」については多くの児童が回答した一方で、「事実と意見を分けること」や「引用」、「図やグラフを用いること」、「簡単に表現すること」、「内容のまとまりに気を付けること」など、これまでの国語の授業で培ってきた学習内容について、言及している児童が少ないことが分かった。よって、自分の考えを他者に伝える際には、「話し方」だけではなく、「どのように自分の考えを表現するか。」や「何を伝えたらよいのか。」ということを明確にしなが

調査 1：教科書に書かれている文章の内容が分かりますか。	
① 分かる	6 人
② 少し分かる	1 人
③ 分からないときがある	1 人
④ よく分からない	1 人
②～④を回答した理由 ・ 難しい文が多いから (2 人) ・ 言葉の意味が分からないから (1 人)	

調査 2：読んだことや聞いたことを整理できますか。	
① できる	3 人
② できない	6 人
①→どのように整理していますか。 ・ くわしく書く (2 人) ・ 短く整理する (1 人)	
②→そう答えたわけは何ですか。 ・ 整理の仕方が分からないから (3 人) ・ どの言葉でまとめたらいいか分からず、長くなってしまったから (2 人) ・ 未回答 (1 人)	

調査 3：自分の考えを伝えるときに工夫していることは何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し方に関する工夫 (6 人)</li> <li>・ 絵で伝える工夫 (1 人)</li> <li>・ 短く伝える工夫 (1 人)</li> <li>・ 事実と感想を分ける工夫 (1 人)</li> </ul>	

表 1 児童の実態について (質問紙法による)

(3) 説明的な文章の複式指導における、文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現させるための手立てについて

ア 説明的な文章の複式指導における、文章を正確に理解させるための手立て

① 単元のゴールの設定

単元の初めに、学習計画表を作成する。その際、何を、どのような順番で、何を目的に学ぶのか、などについて児童と計画を立てることが重要であると考えた。国語の教科書に書かれている次の言語活動の単元を確認し、「単元のゴール」を児童と共有する。これにより、学習が目的的な活動になり、見通しをもちながら学習に臨むことができると考えた(図1)。



図1 単元のゴールの設定

② 目的的な音読

齋藤\*2(2013)は、「音読することで、『今まで見えてこなかったもの』が見えてくる」と述べ、音読をすることの効果について言及した。全文をただ音読するのではなく、児童に考えさせたい部分を中心に音読させることにした。その際、音読に目的をもたせるために、めあてを設定した後に、「学習範囲や学習内容に関する発問」を児童にするなどして工夫した(図2)。



図2 目的的な音読

③ ワークシートの工夫

本校は、複式指導を行っているため、自学ができる児童の育成は重要である。しかし、自学は、教師の適切な手立てが講じられていないと難しい一面をもっている。そこで、伊佐市の複式指導の手引き\*3より、ワークシートを作成する際の3つの視点を意識し、ワークシート作りを行った(図3)。また、児童が考える事柄を「明確」にしたワークシート作りが重要であると考えた。具体的には、「書き抜く」のか、「叙述から考える」のか、などがはっきりとしているということである。これにより、児童は何をどのように考えるのかが分かったり、叙述の中の重要な語句に気付きやすくなったりする効果があると考えた。

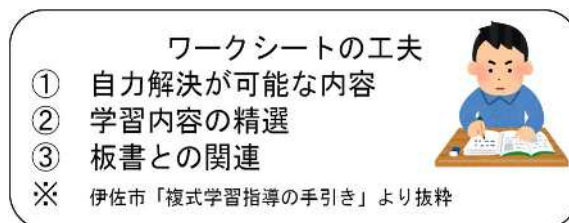


図3 ワークシート作りの視点

④ 発問の工夫(牛尾ライン)

授業の流れに即した発問を行うことで、児童が思考をしたり、学習内容が明確になったりする。そこで、発問の流れを授業の流れに沿って、次のように整理した(図4)。導入、展開、終末という基本的な3つの段階において、教師がどちらの発問を中心に授業を組み立てるのか、「授業の流れは一過性である」という意味を込め、「牛尾ライン」を本校の授業デザインとして構築し、実践することにした。

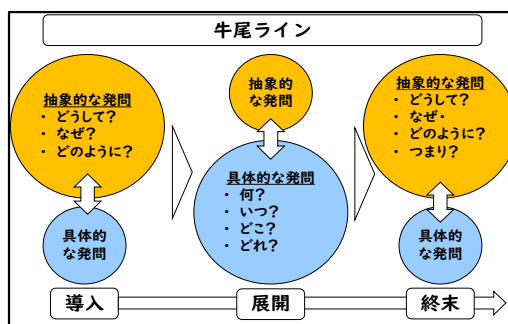


図4 牛尾ライン

\*2) 齋藤達也(2013) 『1日10分! 音読で国語の成績は必ず上がる!』 あさ出版  
 \*3) 伊佐市教育開発研究委員会 『伊佐市の複式学習指導』

⑤ 言語環境の充実

児童の実態の中に、「言葉の意味が分からない。」という実態があった。言葉そのものの意味を理解していないと、文章の理解が難しいと考えた。そこで、教室内の言語環境を充実させることで、児童が「楽しく、進んで」言語を獲得できるのではないかと考えた。本校では、3年前より、保護者に依頼し、「My 国語辞典」を購入するようお願いしており、学習中にいつでも意味調べができるように辞典を活用している。調べた語句は、付箋を貼ったり、マーカーで線を引いたりするなど、調べた語句をいつでも振り返られるように工夫した。また、授業の進行に合わせて、学習内容や重要語句の振り返りができる「学習の足跡」を掲示したり、「あわせて読みたい本コーナー（並行読書）」の設置をしたりするなど、言語環境の充実を図ることにした（図5）。



図5 言語環境の充実

イ 自分の考えを適切に表現させるための手立て

① 考えを伝えるときの5つのコツ

文章の正確な理解を基に、形成した考えを適切に表現するために、国語科の学習指導要領の「B 書くこと ○構成の検討 ○考えの形成、記述」に記載されている内容を分析すると、次の表のように整理される（表2）。

	第1, 2学年	第3, 4学年	第5, 6学年
構成の検討	・事柄の順序に沿う。	・書く内容の中心を明確にする。 ・内容のまとまりで段落を作る。	・筋道の通った文章にする。
考えの形成、記述	・内容のまとまりが分かるようにする。	・自分の考えと理由との関係を明確にする。	・簡単に書く。 ・事実と感想を区別する。 ・引用や図表、グラフを用いる。

表2 構成の検討、考えの形成、記述

これらの国語科における目標及び内容を国語科の指導において、自らの考えを形成、表現させる際に、点線に示した内容を授業者が意識して指導することにより、児童自ら自分の考えを適切に表現することができると考えた。よって、「考えを伝えるときの5つのコツ」という掲示物を作成し（図6）、年間を通して、児童にこれを意識させながら指導に当たることにした。

**考えを伝えるときの5つのコツ**

① 短い文で書きましょう。

② まず、～次に、～そして、を使いましょう。

③ 大事な文はさいしょに書きましょう。

④ わたしは○だと思います。なぜなら、□だからです。の文を使いましょう。

⑤ 図や表、写真も使ってみましょう。

図6 考えを伝えるときのコツ

② ロイロノートの活用

伊佐市では、ICT機器の活用が本格的にスタートしている。昨年度、本校の校内研究で、「ロイロノートを活用した学習は有効である。」という成果を得ていたため、考えを表現する際に「ロイロノート」が有効ではないかと考えた。株式会社LoiLo\*4（2020）によると、ロイロノートでは、自分の考えを様々な形で表現できる機能が備わっていると述べている（図7）。学習目標の達成のために有効である場合には、積極的に活用することにした。

考えを文章や絵で表現できる

ノートを写真で撮影し、表現できる



録画や録音して音声で考えを表現できる

資料やWEBから根拠をもって表現できる

図7 ロイロノートの機能

\*4) 株式会社LoiLo 『ロイロノート・スクール 授業実践事例&活用法ー小学校・中学校用ー2020 Vol. 1』



以上のような手立てを講じることで、国語科における複式指導において、説明的な文章に書かれている内容を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する活動を充実させたならば、文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する児童を育成することができると考え、取り組んだ（図8）。

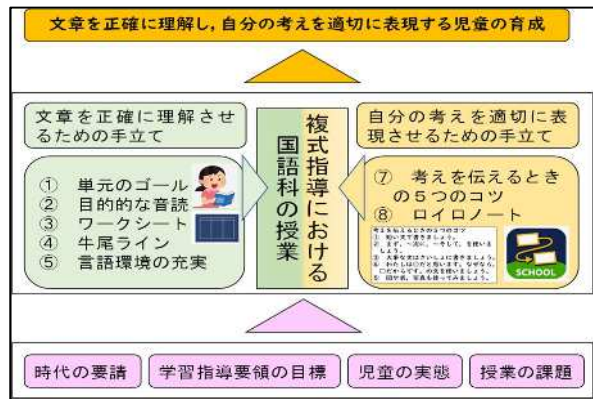


図8 研究構想図

(4) 検証授業

① 単元 【第5学年】

資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう

教材①「固有種が教えてくれること」  
教材②「グラフや表を用いて書こう」

② 単元について

ア 単元の位置とねらい

これまで子供たちは、第4学年「世界にほこる和紙」で中心となる語や文を確かめながら要約することや、「伝統工芸のよさを伝えよう」で、理由や事例を挙げながら、パンフレット等を作成し、他者によさを伝える活動のおもしろさを感じてきている。

そこで、説明的な文章を読み、論の進め方や図表の効果について話し合わせ、そして、図表を使って自分の考えを書かせることで、資料の効果を生かしながら文章を作成することのよさに気付かせることをねらいとして、本単元を設定した。

教材「固有種が教えてくれること」は、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら筆者が主張を展開している。また、教材「グラフや表を用いて書こう」は、資料を用いて自分の考えを裏付けながら、意見を述べる文章を書く教材である。

ここでの学習は、第6学年「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう（教材鳥獣戯画を読む、日本文化を発信しよう）」につながっていく。

イ 指導上の基本的な立場

「固有種が教えてくれること」では、まず、筆者の考えの中心を捉えさせるために、1学期の説明文で学習したことを想起させながら「初め」「中」「終わり」の文章構成になっていることに気付かせる。

次に、資料の効果を実感させるために、資料からどんな情報が読み取れるかを考えさせる活動を取り入れる。また、資料があるときとないときを比較させ、両者の場合、どのように感じるか、話し合わせる。

そして、「グラフや表を用いて書こう」では、今までに読み取った「資料を用いた説明の工夫」を活用して、統計資料を用いた意見文を書かせる活動を通して、自分の考えを裏付けながら意見を述べられるようにしていきたい。

【第6学年】

表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう

教材①「鳥獣戯画を読む」  
教材②「日本文化を発信しよう」

ア 単元の位置とねらい

これまで子供たちは、第5学年「固有種が教えてくれること」で資料を用いた効果を考えながら読む活動や、「グラフや表を用いて書こう」で、目的に合った資料を選び文章を書く活動を通して、資料を用いて自分の考えを裏付けながら、文章を書く大切さについて理解を深めてきている。

そこで、筆者のものの見方や考え方、論の進め方を捉えて読み進める活動や、日本文化について調べたことをパンフレットの目的や対象を明確にしながらか作成する活動を通して、表現の工夫を活用しながら文章等で表現することのよさに気付かせることをねらいとして、本単元を設定した。

教材「鳥獣戯画を読む」は、筆者の絵の観察を基に、絵の事実と感想・意見を繰り返して述べていることが特徴的な教材である。また、「日本文化を発信しよう」は、日本文化について調べたことを構成や絵、写真等の見せ方を工夫してパンフレットにまとめる教材である。

ここでの学習は、中学第1学年の要旨を把握し、伝えたいことを明確にしながらか書く学習につながっていく。

イ 指導上の基本的な立場

「鳥獣戯画を読む」では、まず筆者の論の展開を捉えさせるために、絵と絵巻物の二つの事柄についての評価を読み取らせる。

次に、筆者の表現の工夫を捉えさせるために、漫画やアニメを例に出した理由や、文末表現の効果、絵を複数回に渡って示した理由などを考え、話し合わせ、筆者の表現の工夫を捉えさせる。

そして、「日本文化を発信しよう」では、自分が決めた題材を基に、調べた情報を読み手に伝えるようにパンフレットにまとめさせる。そのために、パンフレットの割り付けを話し合わせたり、「鳥獣戯画を読む」で学習した筆者の表現の工夫を振り返らせたりして、学習を進めていきたい。

③ 指導計画（ゴシック体…本時）

【 5 年 】

【 6 年 】

次	主な学習活動	指導上の留意点	主な学習活動	指導上の留意点
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 範読を聞き、初発の感想を書く。</li> <li>○ 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">資料を用いた文章の構成を考え、それをいかして書ける人になろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題意識と学習の見通しをもたせるために、教科書の「見通しをもとう」を活用する。また、言語活動を設定し、学習意欲をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 範読を聞き、おおまかな内容を捉える。</li> <li>○ 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書ける人になろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題意識と学習の見通しをもたせるために、教科書の「見通しをもとう」を活用する。また、言語活動を設定し、学習意欲をもたせる。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章を「初め」、「中」、「終わり」の3つに分け、筆者の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の考えをまとめさせるために、強調されている表現に着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵と文章を照らし合わせながら読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵のどの部分を取り上げているかについて捉えさせるために、叙述と絵の対応している部分を赤で囲ませる。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中」のそれぞれの段落に見出しを付け、日本に固有種が多い理由と、生き続ける理由についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの段落に見出しを付けさせるために、各段落の書き出しに着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の「絵」に対する評価を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵に対する評価を読み取らせるために、絵についての事実とそれをどう評価しているかについて書かれた文にサイドラインを引かせる。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの資料がどの部分と対応し、何が読み取れるのか、考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの資料がどの部分と対応しているのかを捉えさせるために、デジタル教科書を活用し、視覚的に捉えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の「絵巻」に対する評価を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵巻に対する評価を読み取らせるために、前時と同じように読み、サイドラインを引かせる。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの資料の効果について考える。(本時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の効果捉えさせるために、筆者の立場と読み手の立場の両方の視点から考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 論の展開の中で、「アニメや漫画」の理由を出した理由について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 論の展開の工夫について捉えさせるために、身近な例を出すことの効果を考えさせる。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要旨にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な情報が抜けていないか、不要な情報がないか、などを確かめさせるために、要旨をペアで読み合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の表現の工夫や絵の示し方の工夫について考える。(本時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の表現の工夫や絵の示し方の工夫を捉えさせるために、音読のリズム感や絵がつながること、何を表現したかったのかを考えさせる。</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統計資料の読み方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統計資料の読み方を理解させるために、目盛り、調べた時期等に注目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本文化について書かれた図書資料を読み、表現の工夫を意識しながら読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の工夫に着目させるために、前時の学習の振り返りをさせる。</li> </ul>
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の選択したテーマに対する資料を探し、資料から分かる事実と自分の考えを書き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選んだ資料を正確に読み取らせるために、「統計資料の読み方」を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材を決め、パンフレットの構想を練る。</li> <li>○ 題材についてくわしく調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材を決めさせるために、P151「まとめよう」の著書を参考にさせる。</li> <li>○ 情報を調べさせるために、著書やインターネットを活用させる。</li> </ul>
⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何を、どの順序で書くのかを考える。</li> <li>○ 資料を用いて自分の意見を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何を、どの順序で書くのかを考えさせるために、「書き方の例」を参考にし、「初め」、「中」、「終わり」の構成を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パンフレットの構想を決め、割り付けを考える。</li> <li>○ パンフレットにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み手に情報が伝わるパンフレットを作成させるために、読み手や最も伝えたいことを明確にして構想を決めさせ、割り付けをさせる。</li> </ul>

⑩	○ 資料を用いて自分の意見を書く。	○ 何を、どの順序で書くのかについて考えさせるために、「書き方の例」を参考にし、「初め」、「中」、「終わり」の構成を意識させる。	○ パンフレットにまとめる。	○ パンフレットにまとめさせるために、「紙面の例」などを参考にさせながらパンフレットを作成させる。
⑪	○ 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	○ 自分の書き方を振り返らせるために、資料の使い方や構成の仕方について、意見や感想を交流させる。	○ パンフレットを読み合い、感想を伝え合う。	○ 自分が生かした表現の工夫を振り返らせるために、パンフレットを読み合い、意見や感想を交流させる。

④ 本時の実際 (T…教師 C…児童 G…ガイド役)

【 5 年 】

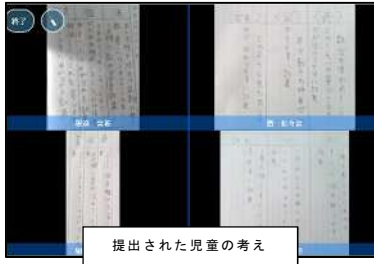
【 6 年 】

過程	主 な 学 習 活 動	教師の位置	主 な 学 習 活 動	過程
見通す	<p>1 学習問題を設定する。</p> <p>T 今日は学習計画のどこをしますか。</p> <p>C 資料の効果について考えます。</p> <p>T 資料について、もっとも端的にまとめている部分はどこですか。</p> <p>C 表題です。</p> <p>T それではそれぞれの資料の表題を音読しましょう。</p> <p>C (表題の音読)</p>		<p>1 前時を振り返り、学習問題を確認する。</p> <p>G 前は、筆者がアニメや漫画を例に出した目的について考えました。身近な例を出すことで、読み手に理解させやすくするための工夫だということが分かりました。</p> <p>G 今日、学習計画表にあるように、表現や絵の示し方の工夫について考えます。めあてを確認します。</p>	振り返る
つかむ	<p>T 今日は資料の効果について考えていきましょう。</p> <p>それぞれの資料には、どのような効果があるのだろうか。</p>		<p>筆者はなぜ、表現や絵の示し方を工夫したのだろうか。</p> <p>G 表現や絵の示し方の工夫をしているのは、どの段落までですか。</p>	つかむ
考える	<p>2 それぞれの資料の効果について考える。</p> <p>T それぞれの資料は読み手に何を伝えたかったのか、先日学習した内容を振り返りましょう。</p> <p>T 資料○は、読み手に伝えたかったことは何ですか。</p> <p>C ○○ということ伝えたかったのだと考えられます。</p> <p>T もし、資料○がなかったらどうですか。</p> <p>C もしなかったら、読み手は○○が分からないと思います。</p> <p>T それでは、</p>		<p>C 第6段落までです。</p> <p>G では、音読します。</p> <p>( 学習範囲の音読 )</p> <p>2 筆者の表現の工夫と絵の示し方の工夫について考える。</p> <p>G では、ワークシートの③～⑤を進めましょう。</p>	見通す
	<p>自分の考えを書きしょう。</p>		<p>自分の考えを書きしょう。</p>	考える



調べる

3 ノートを写真に撮り、ロイロノートに提出する。



提出された児童の考え

4 みんなの考えを基に、資料の効果について話し合う。

G みんなの考えを基に、それぞれの資料の効果について考えます。みんなの考えの中で、似たような部分や同じような部分はありませんか。

C わたしは、「図」で示すことで、物事の順序が分かりやすくなる効果があると思いました。

C ぼくは「写真」を示すことで、筆者の紹介したいものの見目が、すぐに分かる効果があると思いました。



ガイドの進行

発表

ガイドの板書

5 考えを発表する。

T どのような考えが出てきましたか。

G 表では数字が使われていて分かりやすい効果という考えが出てきました。

図では、順番が分かりやすいという効果があるという考えが出てきました。

写真では、見目が分かりやすいという効果があるという考えが出てきました。

6 授業のまとめをする。

T 3つの資料に共通している効果は何でしょうか。

C 文章に書いていないことを伝えていることでより分かりやすい効果があります。

C 情報を短く伝えることで、より分かりやすくなる効果があると思います。

書いていないことを伝える効果や、情報を短く分かりやすく伝える効果がある。

まとめる

3 自分の考えをホワイトボードに書き、黒板に貼る。



ホワイトボードに書く様子

4 自分の考えを発表する。



絵を分けて示した理由は、漫画やアニメを表現したかったからだと思います。

※ 児童が二人しかいないため、教師が予め考えを書いたホワイトボードを準備し、それを掲示させた。

T どのような考えが出てきましたか。

C 文末の表現の工夫では、人間らしさを表現したり、実況しているような雰囲気を出したりするためという考えが出ました。

C 絵の示し方の工夫では、アニメや漫画を表現するためという考えが出ました。

5 授業のまとめをする。

G 今日の授業のまとめを考えましょう。



まとめをしている様子

C 出てきた考えの共通点を中心にまとめていこう。

T 二人の考えたまとめを発表してください。

筆者は読み手を引きつけたり、わくわくさせたりするために、表現の工夫をした。また、これらの工夫をすることで、読み手に興味をもたせようとした。

調べる

まとめる

## 6 検証授業後の児童の実態

検証授業後、実態を調査したところ、次のような実態が得られた。(表2)

<p><b>【5年】それぞれの資料の効果は何ですか。</b></p> <p>※ 表</p> <p>○ 数字が書いてあり、より分かりやすくなる効果 6人</p> <p>○ その他 1人</p> <p>※ 図</p> <p>○ 順序が分かりやすい効果 3人</p> <p>○ 説明を補う効果 3人</p> <p>○ その他 1人</p> <p>※ 写真</p> <p>○ 見た目が分かりやすい効果 7人</p>	<p><b>【6年】資料を読み、図の示し方の工夫は何だと思えますか。</b></p>  <p>「花火の大図鑑」 監修：日本煙火協会</p> <p>花火の打ち上がる様子に合わせて図が示されている。(2人)</p>
---	---

5年生は、資料の効果について質問したところ、多くの児童が表や図、写真について、より具体的に資料の効果の述べる事ができた。これは、学習計画の中で、資料と本文のどの部分に対応しているかを探したり、表題を音読したり、資料があるときとないときの違いを基に考えさせたからだと考えられる。

6年生は、並行読書の「花火の大図鑑<sup>\*5)</sup>」より、図の示し方の工夫について質問したところ、2人とも、図と花火の打ち上がる様子に対応していることを指摘することができた。これは、教材文を扱う中で、筆者がアニメや漫画を例として出しながら説明をする工夫や、絵巻物を分けることでアニメや漫画を表現している工夫を自学の中で考え、捉えることができたからだと考えられる。また、次単元で、意見文やパンフレットを作成させたところ、5、6年生すべての児童が資料の効果を生かしながら意見文を書いたり、構成や文章の表現を工夫しながらパンフレットを作成したりすることができた。(図9)

表2 検証授業後の児童の実態

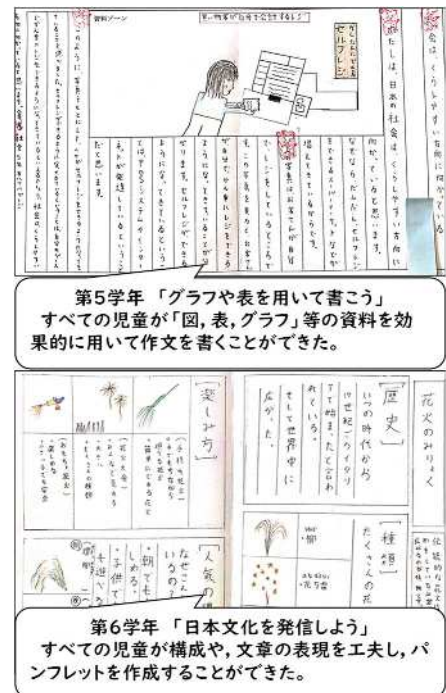


図9 児童が作成した意見文、パンフレット

## 7 成果と課題 (○・・・成果 ●・・・課題)

- 単元のゴールを設定することで、児童が目的をもって文章を理解しようとしていた。
- 目的的な音読をすることで、児童が学習内容や学習範囲を理解し、児童の学習問題に対する意識が高まり、文章(問題)の正確な理解につながった。
- 内容が整理され、板書と対応したワークシートは、児童の自学につながった。
- 「牛尾ライン」を意識した発問は、抽象的な内容を考える時間と、具体的な内容を考える時間が明確化し、児童の思考の深まりにつながった。
- ICTを活用することで、考えを表現する際の自由度が高まった。また、他者との考えの比較が容易にできた。
- 言語活動を単元のゴールと位置付けた単元構想となっていたが、文章の読み取りと言語活動との関連を意識できない児童は、主体的な学びにつながっていなかった。よって、児童が主体的に文章と関わるための更なる手立ての研究が必要である。
- ICTの利活用を通して、考えの比較は容易にできた。一方で、どのような視点で児童が他者の考えを分析したり、話し合ったりしたらよいかが不明確であった。よって、より深い学びへつなげるための更なる手立ての研究が必要である。

\*5) 日本煙火協会(2009) 『職人の技が光る 花火の大図鑑 種類、作り方から歴史まで』 ポプラ社